

# 環日本海大交流を目指した関西経済圏のゲートウェイ「京都舞鶴港」の機能強化について

【担当省庁】国土交通省

京都舞鶴港が日・中・韓・露等の人・もの・情報が交流する関西経済圏の日本海側ゲートウェイとしての役割を果たすため、物流面では京都府北部物流拠点の構築による後背地における中核物流拠点の形成、人流面においては「環日本海クルーズ構想（仮称）」によるグローバルな交流・連携の取組を検討、また、京都府総合計画（令和元年10月策定）に京都舞鶴港を対岸交流のゲートウェイとした構想を位置づけているところであり、環日本海の大交流に向け、以下の機能強化に対して支援していただきたい。

## 〔新たな価値の創出に向けたロジスティクス機能の強化〕

- 舞鶴国際ふ頭において、コンテナ船等の大型化に対応できるよう、2バース目の令和3年度予算における新規着手をお願いしたい。  
また、臨港道路<sup>かみあぐ</sup>上安久線の整備を促進するとともに、当該工事の発生残土を舞鶴国際ふ頭Ⅱ期整備に活用していただきたい。

## 〔国際・国内一体となった高速海上シームレス輸送の実現〕

- 今年、国際フェリーが新規就航することに伴い、前島ふ頭岸壁の改良工事について、老朽化対策も視野に検討していただきたい。

## 〔日本海側玄関口としての観光ゲートウェイの機能強化〕

- 第2ふ頭において事業中のクルーズ旅客の受入機能高度化整備について、必要な予算を確保していただきたい。

## 【現状・課題等】

- ・コンテナの取扱量が増加しており、取扱能力の限界に近づいている状況
- ・京都舞鶴港周辺で進む広域幹線道路ネットワークの整備により、更なる物流の効率化が促進
- ・経済団体、港湾利用者等で構成する「京都舞鶴港振興促進協議会」において、京都舞鶴港第2バース整備及び旅客船受入機能強化等について強く要望された。
- ・令和2年9月に日韓露国際フェリーが新規就航（1便/週）

<p>京都府 の担当課</p>	<p>商工労働観光部・建設交通部 港湾局 港湾企画課(0773-75-0192)</p>
---------------------	--

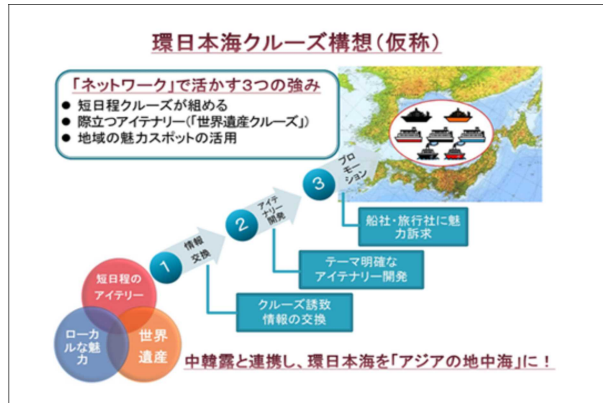
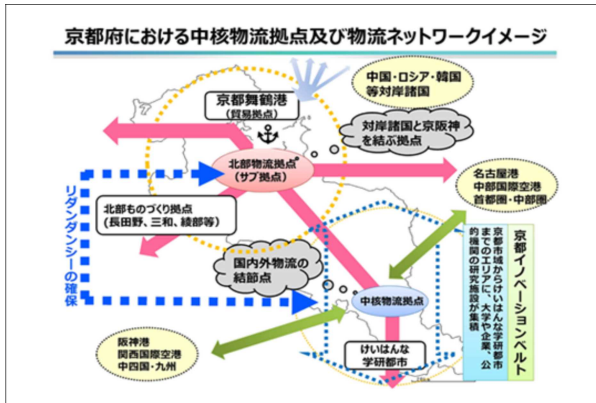
■京都府の検討する構想等

▶ 京都府総合計画（令和元年10月策定）

京都舞鶴港や高速道路網を最大限に生かした新たな産業拠点の形成を推進

▶ 京都府北部物流拠点の構築

▶ 環日本海クルーズ構想（仮称）



▶平成29年度から「京都府IoT物流拠点推進プロジェクト」を立ち上げ、IoT、AIを活用する「高機能物流拠点」や京都舞鶴港との連携を視野に入れた北部地域のサブ拠点の構築について検討

▶中・韓・露各港と連携し、環日本海をクルーズ市場における地中海に見立て、新規航路の誘致により国際交流人口の増加を目指すもの

■機能強化の方向性

	要望箇所・内容
舞鶴国際ふ頭	<ul style="list-style-type: none"> <li>舞鶴国際ふ頭2バース目の直轄事業による早期着手</li> <li>直轄事業で整備中の舞鶴国際ふ頭への臨港道路（上安久線）の早期完成</li> <li>臨港道路上安久線の工事発生残土を舞鶴国際ふ頭のⅡ期整備（埋立て土）として活用</li> </ul>
前島ふ頭	<ul style="list-style-type: none"> <li>前島ふ頭の3号岸壁の老朽化対策に併せた国際フェリー就航に資する改良工事を直轄事業により着手</li> </ul>
第2ふ頭	<ul style="list-style-type: none"> <li>クルーズ船、国際フェリー及び旅客の更なる安全性・利便性の向上に資する国際クルーズ旅客受入機能高度化事業・施設整備事業の必要な予算措置</li> </ul>

■コンテナ・貨物取扱量の推移（空コンテナ含む）

- ▶ 令和元年のコンテナ取扱量は平成22年の約3.5倍（R元：19,812TEU）
- ▶ 近年のコンテナ貨物の増加に加え、道路ネットワークの充実等による更なる新規貨物の増加が見込まれ、取扱能力の限界に近づいている状況

■京都舞鶴港の国際定期航路の状況（令和2年9月末現在）

- ▶ 定期コンテナ航路
  - ・日韓航路 3便/週（令和2年4月 1便増便）
  - ・日中航路 1便/週
- ▶ 令和2年9月 日韓露を結ぶ国際フェリーが新規就航

■クルーズ船寄港回数・乗客数の推移及び国際フェリーの就航状況

- ▶ 令和元年の寄港回数は34回で乗客数が過去最高の63,300人を記録